

別表第8 小学校から中学校教諭2種免許状を取る時の必要単位数について

※最後までよくお読みください。

※愛知県教育委員会における取得方法です。

小学校又は中学校での在職年数			3年※1
最低修得単位数※2	教科に関する専門的事項に関する科目※3 (<u>一般的包括的内容を含むこと※4</u>)		10単位
	各教科の指導法に関する科目(情報通信技術の活用を含む) (<u>包括的な内容を含むこと※5</u>)		2単位
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	生徒指導の理論及び方法	2単位※6
		教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	
		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	

※1 在職年数について

- ・小学校の免許を取得した後の経験年数が必要です。
- ・正規教諭、常勤講師や非常勤講師としての経験を含めることができますが、補助や支援員等の経験は含めることができません。職種により在職年数の換算方法が異なります。詳しくは愛知県教育委員会教職員課人事企画・教員免許グループ(☎052-954-6772)までお問い合わせください。

※2 修得単位について

- ・基礎となる小学校の免許を取得した後の単位しか使えません。小学校の免許取得時に同じ科目の単位を修得していても利用できません。

※3 教科に関する専門的事項について

- ・教科に関する専門的事項に関する科目については、受けようとする教科によって異なります。p3のとおり修得してください。
- ・特に令和6年4月から「理科」、「技術」、「家庭」は科目が変更されています。令和6年3月以前に修得した単位を利用する場合は御注意ください。

※4 一般的包括的な内容を含むことについて

- ・一般的包括的な内容とは、その科目の学問領域をおおまかに網羅するものであり、特定の領域に偏っていない内容を指します。各大学において、一般的包括的な内容を含んで修得する際に必要な講座が定められています。例えば、数学の免許を取得したい場合、「△△の講座を受講すれば、代数学を一般的包括的な内容を含んで修得することができますか。」と単位修得予定の大学へ確認し、単位を修得してください。
- ・一般的包括的な内容を含んで修得できているかどうかを確認する際は、学力に関する証明書の確認欄に○がついていることで確認ができます。上記の聞き方でうまく確認が取れない場合は、「学力に関する証明書を発行する際に、△△の講座を受講すれば、代数学の確認欄に○がつきますか。」と大学へお問い合わせください。それぞれの科目で一般的包括的な内容を含むように修得することが必要となりますので、科目すべての確認欄に○がつくことが必要です。
- ・教職課程のない大学（放送大学等）で一般的包括的な内容は取れませんので御注意ください。

※5 包括的な内容を含むことについて

- ・大学によって修得方法が異なります。大学へお問い合わせください。
なお、包括的な内容を含んで修得できるかどうかを確認する際は、※4と同様に学力に関する証明書の「各教科の指導法」の確認欄に○がついていることで確認ができます。
- ・教職課程のない大学で（放送大学等）包括的な内容は取れませんので御注意ください。

※6 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目について

- ・3つの内容全てを修得することが必須です。例えば、「教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法」の科目のみを2単位修得した場合、「生徒指導の理論及び方法」と「進路指導及びキャリア教育の理論及び方法」の内容を修得していないため、単位不足となります。

中学校の教科に関する専門的事項に関する科目について

・次に掲げる免許教科の種類に応じて、それぞれ定める教科に関する専門的事項に関する科目について
それぞれ1単位以上修得してください。

・それぞれの科目に対して、**一般的包括的な内容を含む**ように修得してください。

・英語以外の外国語の場合は、それぞれ英語の場合の例によるものとします。

例：中国語の場合、【中国語学、中国語文学、中国語コミュニケーション、異文化理解】となります。

・「 」は、職業の「農業、工業、商業、水産」を除き、「 」内から1科目以上選択してください。

免許教科	教科に関する専門的事項に関する科目
国語	国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)
	国文学(国文学史を含む。)
	漢文学
	書道(書写を中心とする。)
社会	日本史・外国史
	地理学(地誌を含む。)
	「法律学、政治学」
	「社会学、経済学」
	「哲学、倫理学、宗教学」
数学	代数学
	幾何学
	解析学
	「確率論、統計学」
	コンピュータ
理科	物理学
	化学
	生物学
	地学
	物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験
音楽	ソルフェージュ
	声楽(合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。)
	器楽(合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。)
	指揮法
	音楽理論・作曲法(編曲法を含む。）・音楽史(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。)
美術	絵画(映像メディア表現を含む。)
	彫刻
	デザイン(映像メディア表現を含む。)
	工芸
	美術理論・美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)

免許教科	教科に関する専門的事項に関する科目
保健体育	体育実技
	「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学(運動方法学を含む。)
	生理学(運動生理学を含む。)
	衛生学・公衆衛生学
保健	学校保健(小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。)
	生理学・栄養学
	衛生学・公衆衛生学
	学校保健(小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。)
技術	材料加工(実習を含む。)
	機械・電気(実習を含む。)
	生物育成
	情報とコンピュータ
家庭	家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む。)
	被服学(被服実習を含む。)
	食物学(栄養学、食品学及び調理実習を含む。)
	住居学
	保育学
職業	産業概説
	職業指導
	「農業、工業、商業、水産」
	「農業実習、工業実習、商業実習、水産実習、商船実習」
職業指導	職業指導
	職業指導の技術
	職業指導の運営管理
英語	英語学
	英語文学
	英語コミュニケーション
	異文化理解
宗教	宗教学
	宗教史
	「教理学、哲学」